

総合工学委員会・機械工学委員会合同工学システムに関する安全・安心・リスク検討分科会小委員会の設置について

分科会等名：老朽及び遺棄化学兵器の廃棄に係るリスク評価とリスク管理に関する検討小委員会

1	所属委員会名 (複数の場合は、主体となる委員会に○印をつける)	○総合工学委員会 機械工学委員会
2	委員の構成	15名以内の会員又は連携会員若しくは会員又は連携会員以外の者
3	設置目的	<p>化学兵器禁止条約の批准により、我が国は日本国内に埋設されている老朽化学兵器ならびに中国に旧日本軍が遺棄した化学兵器を安全に廃棄する義務を持つ。埋設されている化学兵器は発掘や廃棄処理の際、内蔵する火薬類の燃焼・爆発や有害な毒ガス等の漏えいなど多くのリスクが存在する。</p> <p>中国に遺棄された化学兵器は、各地での発掘・処理が進展し、30万発の埋設が想定されているハルバ嶺地区での処理施設が2015年度から操業を開始している。日本国内では屈斜路湖、福岡県荻田港や千葉市で回収された化学弾の廃棄処理が進められてきたが、2020年の東京オリンピック開催に関連した工事の進展に伴い、今後も各地で発見が予想される。</p> <p>一方、諸外国においても、国際化学兵器禁止条約機関(Organisation for the Prohibition of Chemical Weapons; OPCW)のもとに化学兵器処理が進展している。このため、海外の状況も参照し、安全で効率的な廃棄の進捗を促し、実際に生じている問題点を学術的観点から指摘し助言を行う。また、我が国の化学兵器は、すべてが埋設されていること、ヒ素を含む毒ガス兵器が多い点で世界的に未経験な技術といえるため、火薬類の爆発防止やヒ素の安全な保管など安全対策について学術的に評価し、必要な提言を行うことを目的とする。</p>
4	審議事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 化学兵器の安全な処理に関する総合的対策の指針(まとめ) 2. ヒ素を含有する廃棄物の処理と安全対策 3. 海外の化学兵器処理の現状・留意点

		に係る審議に関すること
5	設置期間	平成30年1月25日 ~ 平成32年9月30日
6	備考	※事実上23期からの継続